

実エンドウ新品種「矢田早生うすい」について

「きしゅううすい」よりもかなり早生

1. はじめに

「矢田早生うすい」は川辺町の越本一雄氏が「きしゅううすい」を栽培中、発見、育成した実エンドウの新品種であり、平成5年3月種苗法により品種登録された。今回、この品種の特性について紹介する。

2. 育成開花の特性

初花房節位は、は種期にかかわらず8～9節と低く、早生品種である。開花始めの時期は、10月15日は種の露地栽培で、12月初めであり、「きしゅううすい」より約2ヶ月早かった。草丈は「きしゅううすい」とほぼ同じであったが、上位分枝が少なかった。

3. 莢の特性と品質

莢の形状、大きさ、色についても「きしゅううすい」とほぼ同じであったが、緑色が若干薄く、加熱後の味はやや淡白であった。むき実歩合は41.3%であり、「きしゅううすい」同様高かった(表1)。

4. 収穫時期と収量

(1)露地栽培

秋まきの露地栽培では、早期に開花しても低温のため着莢しない。10月中旬は種の露地栽培では、「きしゅううすい」より半月早い3月下旬より収穫できた(表2)。収量は1a当たり102.4kgであり、「きしゅううすい」の7割弱であった。

表1 莢の特性と品質

品 種	長さ	重さ	色	ムキ実歩合	味
矢田早生うすい	9.0cm	9.3g	薄緑	41.3%	淡白
きしゅううすい	9.3	10.1	薄緑	39.1	良

表2 露地栽培における生育、開花及び収量

品 種	草丈*	筋数*	開花日	開花節位	収穫始め	a 当り収量
矢田早生うすい	72.3cm	14.8筋	12月3日	8.3筋	3月29日	102.4kg
きしゅううすい	73.5	16.9	2月5日	22.5	4月16日	155.2
(種子低温処理)	73.1	16.7	1月8日	19.5	4月13日	109.7

注)平成4年10月15日播種、*12月18日調査

表3 ハウス栽培での月別収量 (a 当たり)

品 種	1月	2月	3月	4月	合計
矢田早生うすい	39.6kg	66.0kg	18.3kg	14.9kg	138.8kg
きしゅううすい	0.5	93.4	113.3	17.3	224.5
(種子低温処理)	24.0	103.2	52.5	40.3	220.0

注)平成4年9月15日播種



写真1 きしゅううすいと矢田早生うすい (2)ハウス栽培

9月15日は種のハウス栽培では、「きしゅううすい」の種子低温処理区よりも収穫時期早くなった(表3)。1月、2月の初期収量が多かったが、合計収量は1a当たり138.8kgあり、「きしゅううすい」より劣った。これは、早期に着莢が始まり、後半樹勢が低下したためと思われた。

5. おわりに

以上のように「矢田早生うすい」は「きしゅううすい」と比較して、かなり早生の品種であった。莢の形状、色、むき実歩合は「きしゅううすい」とほぼ同じであったが、収量は少なかった。今後、本品種に適した肥培管理、栽植密度等を明らかにする必要がある。

(育種部 藤岡唯志)